

## 2017 JUA/AUA Resident Program 参加報告

早稲田 悠 馬 (東京医歯大)

この度、2017年5月12日から16日にボストンで開催された米国泌尿器科学会 (AUA) annual meeting 2017 に AUA/JUA レジデント交流プログラムの一員として参加させていただきました。同プログラムでは、学会期間中の滞在費ならびに学会参加費用の援助のもと、クイズ形式で泌尿器科の知識を競うレジデントボウルや各国からの招待者が集う President reception といったイベントに参加する貴重な機会を得ることができました。AUA annual meeting への参加は3度目になりますが、2演題の発表に加えて、JUA からの派遣という重責を感じ、一層の緊張感を持ちつつ参加しました。

一番の楽しみかつ不安事項であったレジデントボウルでは、中大西洋チームの末席に陣取り、初戦勝利を味わいました。全米各地方会の選抜試験での高得点者が出場しており、臨床系問題の正答率の高さには驚かされました (終了後に知りましたが、過去問用のアプリもあったようです: Uro Challenge)。翌日の準決勝前には技術点の加算を得るべく、企業ブースにおいて、尿管鏡・腎盂鏡での結石採取量を競うゲーム、膀胱内を3D的に見渡せるゴーグルを用いてブルーライト下に膀胱癌を同定するゲームを行いました。一緒に参加した大塚先生と共に、前日のうちにこっそりと練習してから臨み、他のチームメイトと「Good Job」のハイタッチを交わしつつ楽しみました。「さっさと負けて終わりたい」と言いつつ、チームの面々も事前練習をし、ゲームのリチャレンジを懇願するなど、エンジョイしつつも垣間見える真剣味が印象的でした。

また、本年もメンターを務めて下さった Emory 大学の Ritenour 先生と同大のレジデントとの会食では、前立腺全摘除後早期に退院し、外来で尿道カテーテルを抜去するなどの実際の医療現場の話聞くことができました。

滞在中には合間を縫って、チャールズ川沿いをランニングしました。舗装が行き届いた路面は走りやすく、平日早朝の暗い内にもかかわらず、多くのランナーが、比較的早いペースで走っており、100年を超えるボストンマラソンの歴史が街と人々に染み込んでいるようでした。

本プログラムに参加し、より多くの泌尿器科医と交流する機会を得ることができ、この刺激を糧に、一層の精進を重ねていく決意を新たにしました。最後になりますが、このような貴重な機会を与え、サポートいただいた JUA・AUA 関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



写真1 レジデントボウル。初戦勝利後にチームメイトと (右端が大塚先生、左端が早稲田)



写真2 Dr. Ritenour と昼食時に。(左が大塚先生、右が早稲田)



写真3 プログラムに参加した4人で撮影